

## 「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備		
施策	①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化			
(施策の小項目)	○交流拠点施設等の整備			
主な取組	Jリーグ規格スタジアム整備事業	実施計画 記載頁	352	
対応する 主な課題	○国内外の各地域において、MICE誘致競争は年々拡大している中、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生しており、国際的な交流拠点施設の整備が必要である。加えて、案内板の多言語表示化をはじめとした外国人の受入環境整備にも取り組む必要がある。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	Jリーグ規格のサッカースタジアムを整備し、沖縄県のスポーツ及び観光振興に寄与する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	基本構想	基本計画	実施計画	基本設計	実施設計	平成32年 供用予定	県 市町村
担当部課	文化観光スポーツ部 スポーツ振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
—	—	—	実施計画策定を予定していたが、平成25年2月に那覇市が奥武山陸上競技場をJリーグ規格のサッカー専用スタジアムへ建て替える方針を表明したため、調整等を要するため遅れている。整備のあり方について、那覇市と意見交換を行った。	—
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
大幅遅れ	那覇市と意見交換を行い、沖縄県のスポーツ及び観光振興に寄与する施設をいかに整備していくか、整備の主体及び方法等について那覇市と連携し検討を進めた。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
—	—	那覇市の計画が先行していることから、実施計画に代わり那覇市と連携し、施設整備が行われるよう支援のあり方等についての検討を行う。	—

(3) これまでの改善案の反映状況

<p>沖縄県のスポーツ及び観光振興に寄与する施設をいかに整備していくか整備のあり方について、引き続き那覇市と意見交換を行う。</p>
--

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明	平成25年度以降の事業については、那覇市においてJ1公式戦が可能なスタジアムの整備を表明していることから、施設の効率的な整備等について那覇市と調整を行っている状況である。
------	---

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

<p>・狭い県域に2つのスタジアムが立地するという状況は避ける必要があると考えるため、整備のあり方について、那覇市の整備の方向性、県の役割について意見交換を行う。</p>
---

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・那覇市の考える具体的整備計画等を確認し、県による支援のあり方等を検討する。</p>
---

4 取組の改善案(Action)

<p>・那覇市の考える具体的整備計画等について調整し、沖縄県のスポーツ及び観光振興に寄与する施設をいかに整備していくか検討する。</p>
--

## 「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備		
施策	①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化			
(施策の小項目)	○交流拠点施設等の整備			
主な取組	「沖縄空手会館」の整備	実施計画 記載頁	352	
対応する 主な課題	○国内外の各地域において、MICE誘致競争が年々拡大している中、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生しており、国際的な交流拠点施設の整備が必要である。加えて、案内板の多言語表示化をはじめとした外国人の受入環境整備にも取り組む必要がある。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄伝統空手を独自の文化遺産として保存・継承・発展させるとともに、国際大会等の開催や空手研修生の受入体制の強化を図り、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信するための拠点として、沖縄空手会館を建設する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	基本計画						県
	測量・土質調査						
	基本設計	実施設計					
		建設工事等		供用開始			
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
空手道会館(仮称)建設事業	3,606,157 (2,198,157)	2,424,854 (2,083,013)	平成26年12月に空手道会館建設予定地の用地購入、平成27年3月に建設工事の着工、公共施設の運営権導入の検討、展示品調査収集検討、指定管理者管理条例の制定等行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
やや遅れ	沖縄空手会館建設にあたり、H25～26年度を建築工事を行い、平成27年度供用開始とした計画であったが、平成26年度末に工事着手、平成28年度に供用開始となったため、計画の推進はやや遅れている。 平成26年度は、建設用地の取得、物件撤去、実施設計、管理運営の調査など供用開始に向け取組を推進することが出来た。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄空手会館建設事業	1,921,515 (1,064,908)	造成、展示工事、武道棟工事などを実施し、平成28年度の完成を目指す。加えて展示品の調査実施、管理運営等の調査も実施する。	一括交付金 (ソフト)

## 様式1(主な取組)

### (3) これまでの改善案の反映状況

用地取得、実施設計は完了したため、今後は沖縄空手会館建設工事を円滑に進め、平成28年度の供用開始を目指す。合わせて、会館運営の運営体制、展示品の調査検討も進めていく。

### (4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
県外・海外からの空手関係者来訪数	調査予定	—	—	—	—
状況説明	平成26年度中に用地取得、工事の着工を行い、平成28年度11月に供用開始を目指している。供用開始により、沖縄空手会館を拠点として「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信するとともに、国際大会等の開催や空手研修生の受入体制の強化を図ることにより、世界中の空手愛好家の来訪を促進し、平成28年度には、現状より来訪者が増加すると考えている。				

## 3 取組の検証(Check)

### (1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・建設用地の用地取得に時間を要したことから、物件補償、工事着手が遅れ、会館の供用開始が遅れることになった。  
・今後は、工事実施にあたって、文化財調査なども行う必要があるため、工事の円滑な実施に努めていく。

### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・随時、進捗を確認し、会館完成までのスケジュール管理を密に行う必要がある。

## 4 取組の改善案(Action)

・平成27年度は、展示棟工事、武道棟工事を進め、それと平行して、空手道会館の展示設計を完了させる。沖縄空手会館の管理運営、展示品調査収集業務についても推進し、利用者に良好なサービスが提供できるよう取り組んでいくとともに、平成28年度の供用開始に向け事業を円滑に推進していく。

## 「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-ウ	国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備		
施策	①国際交流拠点形成に向けた受入機能の強化			
(施策の小項目)	○交流拠点施設等の整備			
主な取組	世界水準の大規模MICE施設の整備	実施計画 記載頁	342頁	
対応する 主な課題	○国内外の各地域において、MICE誘致競争が年々拡大している中、特に海外市場における知名度の向上が課題となっている。また、資金的なインセンティブや沖縄ならではの体験等も含めた沖縄開催の魅力の創造とその発信も重要である。さらに、近年では、既存施設では収容が不可能な1万人規模の会議開催案件も発生してきており、施設の収容能力も課題を抱えている。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	これまで、施設規模が原因で誘致が実現していなかった中～大型の国内・海外のMICE及びその参加者について、沖縄への誘致を促進するため、大型MICE施設を整備する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
						H29年 供用予定	県
	調査・検討	基本設計	実施設計	工事			
担当部課	文化観光スポーツ部 観光振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
大型MICE受入環境整備事業	0	0	建設候補地選定に向けて、候補地の現況や課題、関係法令の手續や周辺環境への影響等、事業計画に影響を与える要因を検討。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
大幅遅れ	建設地の選定が遅れており、平成26年度調査事業は平成27年度に先送りとなった。当初計画から3年遅れとなる平成32年度に大型MICE施設共用開始を目指す。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
大型MICE受入環境整備事業	90,214	既存施設では対応できない大規模MICEの誘致を促進するため、基本構想を踏まえ、施設整備方式や整備条件等の調査を行う。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

<p>大型MICE施設については、展示会、コンサート等多様なイベントに対応できる展示場、企業の報奨旅行のディナー等に対応可能な多目的ホール、学会開催時の分科会等に対応できる中小会議室を建設する。</p>
---

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
・MICE開催件数 ・MICE参加者数	486件 66,195人 (23年度)	574件 148,222人 (26年度)	786件 136,195人 (28年)	23,636人	2,427件 1,428,592人 (25年)
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>当初計画から3年遅れとなる平成32年度に大型MICE施設共用開始を目指す。大型MICE施設の供用開始により、新たに開催件数約150件増、参加者数:約77万人増の見込みである。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設場所決定の遅れにより、平成26年度に実施予定であった「MICE施設整備民活導入可能性検討調査」を実施することができなかった。</li> <li>・MICEの開催ニーズは年々多種多様化してきており、今後も変化を続けていくものと見込まれるが、主催者・参加者の観点から、MICE施設へのアクセシビリティについては、今後も変わらず利便性が求められる。</li> <li>・県内業者や県民におけるMICE受入体制を整備する必要がある。</li> <li>・大型MICE施設整備に向け利用者満足を得られる施設水準の実現と整備費用最適化を図る。</li> <li>・地域が一体となり周辺エリアでの宿泊施設、商業施設の立地を促進させる必要がある。</li> </ul>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の規模や形態は最も重要事項であるが、施設単体でなく、MICEエリアとして都市計画等の面からも利便性や機能性を検討することが必要である。</li> <li>・PPP等民間活用の導入可能性等の調査を行い、整備運営手法を決定する。</li> </ul>
---

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年5月22日に建設地が「中城湾港マリンタウン地区」となったことを受けて、建設地となる自治体との協働体制を構築するとともに、MICE施設整備民活導入可能性検討調査を委託し、利用者満足を得られる施設水準の実現と整備費用最適化に向け、引き続き詳細に検討していく。</li> </ul>
---